

# 学 園 報

No.51

富山国際学園 URL <http://www.tii.ac.jp/>  
 富山国際大学 URL <https://www.tuins.ac.jp/>  
 富山短期大学 URL <https://www.toyama-c.ac.jp/>  
 富山国際大学付属高等学校 URL <https://www.tuins-h.ed.jp/>

富山短期大学付属みどり野幼稚園 URL <https://www.toyama-c.ac.jp/info/midorino/>  
 社会福祉法人富山国際学園福祉会にながわ保育園 URL <https://www.tkfukushikai.or.jp/ninagawa/>  
 社会福祉法人富山国際学園福祉会西田地方保育園 URL <https://www.tkfukushikai.or.jp/nishiden-hoiku/>

## ●学校法人富山国際学園

〒930-0193 富山市瀬海寺水口444  
 TEL/076-436-5139  
 FAX/076-436-5444

## 事実(fact)と意見(opinion)



理事長  
金岡 克己

ネットワークを介し、個人が情報を入手、交換できる時代を迎えました。結果、固定電話の加入者数が減少を続けています。「ながらスマホ」による事故も多いようです。

ロシアによるウクライナ侵攻では、「偽旗作戦」という用語が登場しました。文字通り、相手国を装って自国に有利な状況を作り出すというものです。敵の攻撃と見せかけ侵攻の口実とする、あるいは、相手の国際的信用を棄損しようとする作戦です。

日々、多くの情報に接する現在、左顧右眊しないためには、もたらされる情報が、確かな事実なのか、誰かの意見・感想なのかを区別して理解する姿勢が大切ではないでしょうか。なお、同一の事実から異なる結論が導き出されることがあります。

品質管理で知られた唐津一氏の著作『販売の科学』に、南方の島に靴を売りに行く二人のセールスマンの話があります。一人は「みんな裸足だ。靴は売れない」と報告、もう一人は「靴を履く習慣を植え付ければ市場は大きい」と伝えたそうです。「みんな裸足だ」は事実ですが、導かれる意見が、ものの見方により180度異なるという例です。

マスコミの報道はどこまで信用できるのでしょうか。これにも懐疑の目を向けなければなりません。特に政治的話題には注意が必要です。一例として、政策に反対するデモ行進を考えてみましょう。デモの参加者の数には、主催者発表と警察発表で大きな乖離があります。あるマスコミがその政策に反対の立場の場合、あえて主催者発表の数だけを報道するケースが考えられます。反対者が多いとの印象操作です。

こうして報道する事実を取捨選択することにより、意図的に世論を誘導している場合があります。また不可解な自己規制も散見されます。直近の例では、安倍元首相銃撃事件において、関連する宗教団体の名称が当初なかなか報道されませんでした。これなどは、社会の公器という側面より、何らかの自己都合を優先し

た事例でしょう。

適切な情報の伝え方とは、有力な複数の見解を併記することと思います。

これに関し、ある思い出があります。10年近く前、東京の経済団体に加入していた時、ユネスコの事務局長が来日し、団体主催の講演会が開かれたことがありました。金岡は、事務局から、講演後、質問を行うよう依頼されていました。

お聞きしたのは、「ユネスコ憲章の前文に、戦争は人の心の中で生まれるものだから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない、とある。東アジアにおいて、自国に有利なよう、事実と異なる歴史を教える国がある。紛争を防ぐには、若者に正しい歴史を教育することが大切ではないか」というものです。

これに対し、にこやかに講演していた事務局長が急に真顔になり、「非常に大事な指摘だ」と切り出し、ドイツ政府の支援のもとホロコースト教育に関与している、子どもたちには他者を尊重し歴史に責任を持つといった文化的リテラシーが必要だ、双方の共通の歴史を読むことが非常に重要である、という話をされました。

都合のよい事実のみを取り上げ、不利な事実には言及しないのは、人を、社会を欺く行為です。これが常態化しているところに、政治家や一部マスコミの不誠実さを感じます。

事実と意見を区別する姿勢、判断できる素養を身に着けたいところです。実は、意外に簡単な方法があります。インターネットを活用し、見方の異なる関連情報を収集し、事実かどうかを自ら確かめる習慣を培えばよいのです。

富山国際学園においては、常に事実立脚する姿勢、evidence based の意思決定を心掛けてまいりましょう。

### CONTENTS

□事実(fact)と意見(opinion) 理事長 金岡 克己 … 1

□特集1 富山国際大学が令和4年度数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度に認定されました … 2

□特集2 ボート部、創部30年目の大躍進 … 3

□特集3 富山国際学園におけるSDGsへの取り組み … 4～5

□令和4年度部門別学生・生徒・園児数等 … 5

□令和3年度決算及び財務の状況 … 6～7

□学園NEWS … 8

# 富山国際大学が令和4年度数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度に認定されました

富山国際大学 現代社会学部 教授 河野 信

内閣府が公表した「AI戦略2019」では、『デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス・AI」の基礎などの必要な力を全ての国民が育み、あらゆる分野で人材が活躍する環境を構築する必要』があると謳われています。そしてこの中では、すべての大学生に対して「学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、適切に理解し活用する基礎的な能力を育成」する（リテラシーレベル）、また大学生の約半数を目標に「数理・データサイエンス・AIを活用して課題を解決するための実践的な能力を育成」する（応用基礎レベル）必要性が示されました（図1）。これらを実現するために、各大学で実施している教育課程が一定の基準を満たした場合に国が認定を行う制度が2021年より開始されました。



図2 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度リテラシーレベル（両学部認定）の認定ロゴ



図3 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度応用基礎レベル（現代社会学部認定）の認定ロゴ

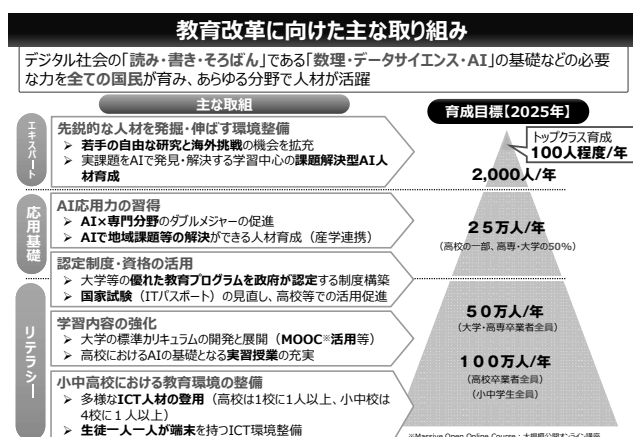


図1 教育改革に向けた主な取り組み  
(出典：内閣府 AI戦略2019)

このような国の戦略を受けて、富山国際大学の現代社会学部では2020年度から、子ども育成学部では2021年度から「富山国際大学 数理・AI・データサイエンス教育プログラム」を開始しました。今回、国に対して本学の教育プログラムを申請し、両学部ともに「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度リテラシーレベル」（図2）、現代社会学部はこれに加えて「同・応用基礎レベル」（図3）が認定を受けました。特に「応用基礎レベル」は北陸3県での私立大学では本学が唯一認定を受けました。国公立大学を加えても認定を受けたのは、富山大学、金沢大学、本学の3校のみとなっています。

現代社会学部では、「情報科学概論」、「ビジネス情報演習Ⅰ」、「ビジネス情報演習Ⅱ」の3科目の単位を取得することでリテラシーレベルを修了することがで

きます。これら3科目はいずれも卒業するために単位取得が必要な必修科目であり、2021年度以降に入学した全学生が修了することになります。

さらに、現代社会学部ではリテラシー3科目に加えて、「データサイエンス基礎Ⅰ」、「プログラミング基礎」、「情報社会と情報倫理」、「人工知能とその活用」の4科目すべての単位と、「データサイエンス実践演習Ⅰ」もしくは「データサイエンス実践演習Ⅱ」のどちらか1科目、計8科目の単位を取得することで、応用基礎レベルを修了することができます。

子ども育成学部では、「情報処理演習」と「人間と情報」の単位を取得することでリテラシーレベルを修了することができます。「人間と情報」は現在選択科目になっており全員が履修しているわけではありませんが、今後の必修化を検討しており、最終的には学生全員が修了することを目指しています。

表1に示すとおり、本学のプログラム受講者は増加傾向にあり、今後とも数理・データサイエンス・AIの知識を持ち、社会に貢献する学生を育成していきたいと考えています。

表1 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの履修者数と修了者数（2022年10月現在、応用基礎レベルは2年間のプログラムのため初年度は修了者なし）

| 学部名<br>(プログラム名)    | 2022年度 | 2021年度 | 2020年度 | 履修者 | 修了者 |
|--------------------|--------|--------|--------|-----|-----|
|                    | 履修者    | 履修者    | 修了者    |     |     |
| 現代社会学部<br>(リテラシー)  | 127    | 125    | 110    | 26  | 25  |
| 現代社会学部<br>(応用基礎)   | 87     | 56     | 5      | 26  | —   |
| 子ども育成学部<br>(リテラシー) | 46     | 30     | 30     | —   | —   |



# ボート部、創部30年目の大躍進

富山国際大学 現代社会学部 教授 助重 雄久（ボート部 部長）

富山国際大学ボート部は現在男子27名、女子11名、総勢38名の部員で活動しています。創部30周年目にあたる2022年度は日本ボート協会主催の大会が3年ぶりの対面開催に戻ったなかで、春からめざましい活躍が続きました。

5月には、海の森水上競技場で初めて開催された第100回全日本選手権大会で男子ペア（橋口拓未＝3年、倉内洋輝＝2年）が優勝しました。全日本選手権では2014～2016年に女子が3年連続で優勝しましたが、男子種目では創部以来初の優勝となりました。また、男子軽量級ペア（内野大輝＝4年、長谷川涼太＝4年）は銀メダル、男子軽量級クォドルプル（小林大翼＝2年、若崎晴斗＝2年）は銅メダルを獲得しました。

9月に戸田ボートコースで開催された第49回全日本大学選手権大会（インカレ）では、エントリーした男子6種目中5種目、女子3種目全てがA決勝に進出し、男子シングルスカルの渡辺龍一郎（4年）が見事なラストスパートで優勝、金メダルを手にしました。同種目での金メダル獲得は創部以来初です。この大会では、男子ダブルスカル（倉内洋輝、長谷川享＝3年）が銀メダル、男子ペア（橋口拓未、直田拓巳＝4年）と男子クォドルプル（若崎晴斗、長谷川涼太、若松草汰＝3年、内野大輝）も銅メダルを獲得しました。また、各種目1～4位に入った大学に与えられる総合得点は男子12点、女子2点で、男子は2年連続で参加大学中2位、女子は8位となりました。

10月に戸田ボートコースで開催された第63回全日本新人選手権大会では男子ダブルスカル（倉内洋輝、若崎晴斗）が優勝、本学が同種目3連覇を達成しました。

ここでボート部の「入口」と「出口」について紹介します。高校時代にインターハイや国体で上位入賞したトップ選手の多くは、首都圏や関西圏などの大学に進学してしまいます。このため、本学では寺下行磨監督がインターハイや国体に自ら出かけ、大学で鍛えれば伸びそうな有力選手に声をかけて入学を促しています。また、自ら志願して北海道や九州から本学の門を叩いた無名の選手もいます。こうした選手がメダルを獲得した例も少なくありません。

卒業後の進路はさまざまですが、かつては大学でボートを引退し、富山県内や郷里の一般企業や消防・

警察に就職する者が大部分でした。しかし、2015年以降は県内の陽進堂と北陸電気工業が女子選手を受け入れて下さるようになり、働きながら漕ぎ続ける選手も出てきました。さらに近年では、有名企業の社会人チームから男子選手に声がかかるようになりました。2020～21年にインカレ男子ダブルスカル連覇を成し遂げた柘植実選手はトヨタ紡織、木村竜暉選手は今治造船に就職し、各社のクルーとして出場した今年度の全日本選手権で優勝しました。また渡辺龍一郎選手も来春NTT東日本への入社が決まっており、全日本選手権ではOB・OGと現役部員が対決するシーンも増えそうです。



全日本選手権男子ペア（橋口、倉内）



全日本大学選手権男子シングルスカル（渡辺）



全日本新人選手権男子ダブルスカル（倉内、若崎）

# 富山国際学園における SDGs への取り組み

2015年9月25日にニューヨークで行われた国連サミットにおいて、SDGsを含む「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。それから約7年が経過した今日、日本でも政府を中心として様々なセクターでの取り組みが行われてきています。今回の特集では本学園におけるそれぞれのSDGs活動を振り返り、現在の活動状況を共有しながら、それぞれの教育機関における活動の継続性と連続性について考えるきっかけとしたいと思います。幼稚園から大学までのあらゆる発達段階に関連するわが学園の特徴を生かしたSDGs活動の在り方について考えてまいりましょう。

## 学生と共に進める大学のSDGs

富山国際大学 教授 上坂 博亨

本学のSDGs活動は2017年12月に学内で開催した安井至先生（元国際連合大学副学長）の講演に端を発しています。その後学長裁量経費などを利用して教職員有志による活動が開始され、学内にSDGs17目標の大型ポスターを掲示したり、バッジを配布するなどの啓発を進めてきました。2020年には有志学生による「SDGs推進サークル」が立ち上がり、環境サークルとも連携しながら活動を推進しています。

現代社会学部では授業やゼミを通じた活動として、南砺市SDGs活動と連携した地域ヒアリングや提案活動、地域の空き家リノベーションと地域活性化、自動車ディーラーと連携した記念品づくり、八尾町との連携による酒米の栽培と日本酒造りなどがあります。本年10月には学内除草への貢献として学内でヤギの飼育実験を行い、その除草能力の高さが実証されると共に学生や教職員、訪れる幼稚園児などへ大きな癒し効果を与えました。（写真）

子ども育成学部では授業の一環として、学生グループによって富山市と連携した海岸美化啓発活動、使わなくなった古着を交換するイベント開催などが行われました。また県内初の学生による子ども食堂が2017年にオープンし、地域の子どもたちに定期的に食事と遊び場を提供しています。初等教育との連携は学部の中心的な課題であり、授業を通したSDGsカルタやすごろくの制作と、近隣小学校での実践も進められています。

現在はまだ個別活動が推進されている段階ですが、本年度4月に設置されたSDGs推進委員会を中心に、今後は高大連携も視野に入れながら、大学SDGsの体系構築に向けて活動を進める予定です。



## SDGsへの取り組み—地域と未来を支える—

富山短期大学 地域連携センター長 小平 達夫

富山短期大学地域連携センターでは、地域連携の総合窓口として地域住民、NPO、産業界、行政等と連携を深め、地域文化および産業の振興、地域社会の活性化・発展に貢献することを目的として、公開講座を実施しています。2022年度の富山短期大学公開講座は、「SDGs」を主テーマとし、特色ある7講座を開講しました。

2022年7月2日（土）には、食物栄養学科の太田裕美子准教授と中根一恵講師が「食品ロスを考えよう～Let's サルベージパーティ～」を開講しました。家庭で持て余している食品や残っている食品をサルベージ（救出）し、食品ロス削減を目的に、サルベージパーティとして、「冷蔵庫の大掃除メニュー」を作りました。参加者からは「家にあるもので、すぐに作れる簡単なメニューの工夫を知ることができて良かった」との声をいただきました。



冷蔵庫の大掃除メニュー

また、7月～9月の第1・第3木曜日には、富山短期大学ラジオ公開講座として、KNBラジオ「とれたてワイド朝生」内で「教えて！ティーチャー」を開講しました。主テーマを「トレンド解説～くらしの中のSDGs～」とし、全6回で実施しました。

2022年8月4日（木）第3回「消費生活を見直そう、SDGsの視点から」では、学外講師として、富山国際大学名誉教授で、富山県消費者協会の会長である尾畑納子先生に講義をお願いし、富山県消費者協会の取り組みやエシカル消費について教えていただきました。

今後も、本学の持つ知的資源を活用し、共同・協力して魅力あるまちづくりのために、地域貢献を果たしていきます。



## 本校のSDGsの取り組み

富山国際大学付属高等学校 教諭 河上 誠

2012年8月、国際交流活動等の実績が認められ、県内の高校で初めてユネスコスクールの認定を受けた本校は、ESD（Education for Sustainable Development）の拠点校として持続可能な社会の担い手を育む役割を担いました。以来、教育目標や各教科のシラバスにESDを盛り込んでいくとともに、2015年9月18日、文化祭での記念講演で全校生徒が初めて詳しく学び本格始動。奇しくもその1週間後、国連総会でSDGsが採択され、ESDを展開していく具体的指針とすることになりました。2017年には関連活動を率先して行う部活動としてユネスコ部が発足し、様々なアクションを提案して校内外に発信、SDGs啓発とその活動の輪を広げています。

2019年3月、卒業記念品として特大SDGsパネルがエントランス前のフロアに設置され、そこには生徒会等の発案で本校独自の17の目標が掲げられました。全校生徒・教職員が公式バッジを身に付け、各教室には17Goalsアイコンのマグネットシートを常備し授業等で使用を始め、生徒会は校内各所に該当アイコンのステッカーを掲示しました。さらに、昨年6月から生徒が日々の授業や学校内外の活動等を通して得た、SDGsに関する学びや気づきを専用ノートに書き込んでいく「国際高SDGsプロジェクト」もスタートさせています。

ユネスコスクール認定10周年の今年10月、新聞部が新たに推進キャンペーンを開始。これまでの取り組みを検証してより可視化する工夫とともに、本校独自のターゲットや指標を提案し、生徒会等とも連動して全校に広げるべく活動をしています。



今後は生徒全体が「自分事」としてさらなるSDGsマインドを持つために、教科横断の探究型授業の開発や、地域・学園内も含む諸機関との連携を図っていきたいと考えています。

## 幼児目線で考えるSDGs～国によって暮らし方が違うんだね～ 富山短期大学附属みどり野幼稚園

みどり野幼稚園では、毎日、自分が興味・関心をもったことを遊びに取り入れながら過ごす子どもたちの姿が見られます。子どもたちの興味・関心は、幼児目線での「持続可能な社会づくり」につながるものであり、その内容によって遊びも変化するようです。

園庭にグリーンカーテンを設置した年には、猛暑だったこともあり「13.気候変動への具体的対策」に年長児の関心が高まり、家族も交えたエコ活動や「14.海の豊かさを守る」内容を織り込んだ自作のストーリーを演じて発表する体験につながりました。今年の年長児は、年中組の途中でインドネシアに転居した友達とZoomでやり取りを重ねてきたこともあり、「国の違い」に関心を持っています。特に、夏休みに一時帰国した友達が見せてくれた「インドネシアのお金」の数字の桁数にびっくり。「お金持ちになったの?」「いや、100000ルピアでは〇〇しか買えないよ」。経済の難しい仕組みはわからなくても、国によってお金の価値や暮らし方が違うことを知り、「10.人や国の不平等」を意識したようです。このような興味・関心は、レストランごっこで（外国の人向けのメニュー）や（外国のお金）をつくらうという発想や、ねこ神社ごっこで「神社って何?他の国の人はどこにお参りにいくの?」という疑問につながり、いろいろな国の事を自ら調べようとする姿が見られます。園では、この姿を大切に「国による生活・文化の違いを知り、互いに尊重する気持ち」が育つよう、保育を展開しています。

## 令和4年度部門別学生・生徒・園児数等

令和4年5月1日現在（単位:人）

| 部 門   | 学部・学科名等   | 収容定員<br>(A) | 1 年        | 2 年        | 3 年        | 4 年 | 合計<br>(B) | 定員充足率<br>(B / A) | 備 考 |
|-------|-----------|-------------|------------|------------|------------|-----|-----------|------------------|-----|
| 大 学   | 現代社会学部    | 490         | 125        | 114        | 118        | 142 | 499       | 101.8%           |     |
|       | 子ども育成学部   | 370         | 98         | 103        | 91         | 103 | 395       | 106.8%           |     |
|       | 小 計       | 860         | 223        | 217        | 209        | 245 | 894       | 104.0%           |     |
| 短 大   | 食物栄養学科    | 160         | 85         | 87         |            |     | 172       | 107.5%           |     |
|       | 幼児教育学科    | 160         | 87         | 80         |            |     | 167       | 104.4%           |     |
|       | 経営情報学科    | 220         | 118        | 106        |            |     | 224       | 101.8%           |     |
|       | 健康福祉学科    | 80          | 29         | 25         |            |     | 54        | 67.5%            |     |
|       | 専攻科食物栄養専攻 | 30          | 12         | 16         |            |     | 28        | 93.3%            |     |
|       | 小 計       | 650         | 331        | 314        |            |     | 645       | 99.2%            |     |
| 高 校   | 全日制普通科    | 755         | 277        | 274        | 215        |     | 766       | 101.5%           |     |
| 幼 稚 園 |           | 110         | 3 歳児<br>23 | 4 歳児<br>26 | 5 歳児<br>28 |     | 77        | 70.0%            |     |
|       | 総 計       | 2,375       |            |            |            |     | 2,382     | 100.3%           |     |

# 令和3年度 決算及び財務の状況

## 決算及び財務の状況

令和3年度の事業報告及び決算は、去る5月26日開催の理事会・評議員会において承認されました。各校の主な決算の概要及び学園全体の決算・財務状況は以下のとおりです。

### 大学

大学は、現代社会学部において入学定員を下回ることとなりましたが、大学全体では5年連続で収容定員を確保できました。その結果、当年度収支差額は133,993千円（R2 90,113千円）の黒字計上となりました。補助金は、国等の方針により度々要件が変更になることから、安定的に確保することが難しくなっています。従って、収入源として確実な学生数を安定的に確保することに努める必要があります。

### 短大

短大は、経営情報学科・健康福祉学科において入学定員を下回ることとなり、短大全体では3年連続で収容定員を確保できましたが、学生生徒等納付金収入及び経常費等補助金収入の減少等により、当年度収支差額は△31,414千円（R2 36,444千円）と赤字となりました。少子化や全国的な4年制大学志向の高まりなどを考慮すると、今後さらに厳しさが増していくことが予想されます。

### 高校

高校は、入学定員を上回りましたが、令和2年度に入学定員を下回ったことが影響し、全体では収容定員を下回りました。当年度収支差額は、40,753千円（R2 28,211千円）となり、前年度より黒字額が増となりました。

### 幼稚園

幼稚園は、全体では定員を下回りました。当年度収支差額は、△9,390千円（R2 △9,926千円）と赤字となりました。今後は、多様な保育ニーズに応えることにより、安定的に園児数を確保することが必要です。

## 学園全体の決算及び財務状況

**事業活動収支計算書**（当該会計年度の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容と基本金組入後の均衡の状態を明らかにするもの）において、事業活動収入合計が2,744百万円（対前年度比96百万円減）、事業活動支出合計が2,594百万円（同24百万円減）、以上のことから、事業活動収支は150百万円（同72百万円減）の黒字となりました。

収入減の主な要因は、①学生生徒納付金の減、②私学退職金財団交付金の減等によるものです。

支出減の主な要因は、人件費等が前年度に比べ減となったことなどによるものです。

この結果、令和4年度への翌年度繰越収支差額（累積赤字）は、令和2

### 資金収支計算書

令和3年4月1日から  
令和4年3月31日まで

（単位：千円）

|      | 科 目         | 3年度予算     | 3年度決算①    | 前年度決算②    | 差異①－②    |
|------|-------------|-----------|-----------|-----------|----------|
| 収入の部 | 学生生徒等納付金収入  | 1,997,023 | 1,995,554 | 2,043,820 | △ 48,266 |
|      | 手数料収入       | 37,568    | 37,721    | 38,873    | △ 1,152  |
|      | 寄付金収入       | 1,503     | 3,885     | 4,627     | △ 742    |
|      | 補助金収入       | 646,620   | 607,395   | 629,567   | △ 22,172 |
|      | 資産売却収入      | 1         | 0         | 0         | 0        |
|      | 付随事業・収益事業収入 | 35,838    | 23,658    | 18,822    | 4,836    |
|      | 受取利息・配当金収入  | 5,220     | 1,758     | 1,754     | 4        |
|      | 雑収入         | 43,561    | 57,229    | 82,433    | △ 25,204 |
|      | 借入金等収入      | 0         | 0         | 0         | 0        |
|      | 前受金収入       | 447,020   | 460,960   | 459,755   | 1,205    |
|      | その他の収入      | 110,319   | 117,081   | 110,055   | 7,026    |
|      | 資金収入調整勘定    | △ 560,755 | △ 533,385 | △ 564,954 | 31,569   |
|      | 前年度繰越支払資金   | 940,047   | 940,047   | 844,356   | 95,691   |
|      | 収入の部合計      | 3,703,965 | 3,711,903 | 3,669,108 | 42,795   |
| 支出の部 | 人件費支出       | 1,662,046 | 1,598,660 | 1,645,743 | △ 47,083 |
|      | 教育研究経費支出    | 648,089   | 534,433   | 509,839   | 24,594   |
|      | 管理経費支出      | 145,905   | 125,345   | 126,773   | △ 1,428  |
|      | 借入金等利息支出    | 0         | 0         | 0         | 0        |
|      | 借入金等返済支出    | 0         | 0         | 0         | 0        |
|      | 施設関係支出      | 33,679    | 25,376    | 51,306    | △ 25,930 |
|      | 設備関係支出      | 34,619    | 32,226    | 65,147    | △ 32,921 |
|      | 資産運用支出      | 4,512     | 339,770   | 317,800   | 21,970   |
|      | その他の支出      | 108,358   | 79,645    | 119,310   | △ 39,665 |
|      | (予備費)       | (0)       |           |           |          |
|      | 資金支出調整勘定    | △ 84,000  | △ 85,669  | △ 106,857 | 21,188   |
|      | 翌年度繰越支払資金   | 1,135,257 | 1,062,117 | 940,047   | 122,070  |
|      | 支出の部合計      | 3,703,965 | 3,711,903 | 3,669,108 | 42,795   |

### 事業活動収支計算書

令和3年4月1日から  
令和4年3月31日まで

（単位：千円）

|             | 科 目                             | 3年度予算       | 3年度決算①      | 前年度決算②      | 差異①－②    |
|-------------|---------------------------------|-------------|-------------|-------------|----------|
| 教育活動収入の部    | 学生生徒等納付金                        | 1,997,023   | 1,995,554   | 2,043,820   | △ 48,266 |
|             | 手数料                             | 37,568      | 37,721      | 38,873      | △ 1,152  |
|             | 寄付金                             | 3,506       | 4,279       | 5,209       | △ 930    |
|             | 經常費等補助金                         | 645,420     | 605,708     | 619,693     | △ 13,985 |
|             | 付随事業収入                          | 35,838      | 23,658      | 18,822      | 4,836    |
|             | 雑収入                             | 43,560      | 63,489      | 94,727      | △ 31,238 |
|             | 教育活動収入合計(1)                     | 2,762,915   | 2,730,409   | 2,821,144   | △ 90,735 |
|             | 人件費                             | 1,666,046   | 1,606,915   | 1,654,196   | △ 47,281 |
|             | 教育研究経費                          | 963,089     | 854,541     | 831,405     | 23,136   |
|             | 管理経費                            | 149,604     | 129,917     | 129,570     | 347      |
| 教育活動支出の部    | 徴収不能額等                          | 2           | 0           | 0           | 0        |
|             | 教育活動支出合計(2)                     | 2,778,741   | 2,591,373   | 2,615,171   | △ 23,798 |
|             | 教育活動収支差額(3)=(1)-(2)             | △ 15,826    | 139,036     | 205,973     | △ 66,937 |
| 教育活動外収入の部   | 受取利息・配当金                        | 5,220       | 1,758       | 1,754       | 4        |
|             | その他の教育活動外収入                     | 1           | 0           | 0           | 0        |
|             | 教育活動外収入合計(4)                    | 5,221       | 1,758       | 1,754       | 4        |
|             | 借入金等利息                          | 0           | 0           | 0           | 0        |
|             | その他の教育活動外支出                     | 0           | 0           | 0           | 0        |
| 教育活動外支出の部   | 教育活動外支出合計(5)                    | 0           | 0           | 0           | 0        |
|             | 教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)            | 5,221       | 1,758       | 1,754       | 4        |
|             | 經常収支差額(7)=(3)+(6)               | △ 10,605    | 140,794     | 207,727     | △ 66,933 |
| 特別収入の部      | 資産売却差額                          | 1           | 0           | 0           | 0        |
|             | その他の特別収入                        | 4,803       | 11,363      | 17,184      | △ 5,821  |
|             | 特別収入合計(8)                       | 4,804       | 11,363      | 17,184      | △ 5,821  |
|             | 資産処分差額                          | 8,600       | 2,358       | 2,699       | △ 341    |
|             | その他の特別損失                        | 1           | 50          | 0           | 50       |
| 特別支出の部      | 特別支出合計(9)                       | 8,601       | 2,408       | 2,699       | △ 291    |
|             | 特別収支差額(10)=(8)-(9)              | △ 3,797     | 8,955       | 14,485      | △ 5,530  |
|             | 【予備費】(11)                       | (0)         |             |             |          |
|             | 基本金組入前当年度収支差額(12)=(7)+(10)-(11) | △ 29,902    | 149,749     | 222,212     | △ 72,463 |
|             | 基本金組入額合計(13)                    | △ 11,208    | △ 62,894    | △ 113,750   | 60,856   |
| 基本金繰越収支差額の部 | 当年度収支差額(14)=(12)+(13)           | △ 41,110    | 96,855      | 108,462     | △ 11,607 |
|             | 前年度繰越収支差額(15)                   | △ 2,383,816 | △ 2,383,816 | △ 2,492,278 | 108,462  |
|             | 基本金取崩額(16)                      | 0           | 3,000       | 0           | 3,000    |
|             | 翌年度繰越収支差額(17)=(14)+(15)+(16)    | △ 2,424,926 | △ 2,283,961 | △ 2,383,816 | 99,855   |
|             | (参考)                            |             |             |             |          |
| 事業活動収支合計    | 事業活動収入合計(1)+(4)+(8)             | 2,772,940   | 2,743,530   | 2,840,082   | △ 96,552 |
|             | 事業活動支出合計(2)+(5)+(9)+(11)        | 2,802,842   | 2,593,781   | 2,617,870   | △ 24,089 |

## 令和3年度学校法人富山国際学園財務分析について

令和3年度決算の財務分析によると、法人全体及び短大・幼稚園を除く各校では、経常費ベースでの収益性は前年度に引き続き、おおむね良好である。また、法人全体の安全性は今後さらに高める必要があるが、短期的な支払い能力（返済力）は特に問題なしと判断される。

**事業活動収支差額比率**（損益ベースでの収支状況）は学園全体では、0%以上であるが、幼稚園がマイナスとなっていることから、定員割れの状況を打開することが必要である。**人件費比率**（人件費の収入に対するバランス）では、高校・幼稚園が60%を超えており、対策が必要である。また、**教育研究費比率**（教育研究費の経常収入に占める割合）は目安とされる30%を大学・高校は下回っており、今後、収支の均衡を失しない限り、教育活動への更なる投資を目指す必要がある。

**積立率**（安定的に経営を行う上での保有資産の状況）は78.7%と100%以下であることから、長期的に必要な資金を確保できていないため、今後運用資産を増やし、安全性を高める必要がある。

**流動比率**（短期的な支払い能力）は186.6%と返済力に問題はない。

今後、本学園は教育活動の維持・向上及び短大などの施設老朽化に伴う修繕費の増加が見込まれることを考慮すると、更に収益性を高め、運用資産を増加させて安全性を高めていかなければならない。

### 【主な財務指標】

（単位：千円）

|      | ①         | ②         | ③             | ④          | ⑤     |
|------|-----------|-----------|---------------|------------|-------|
|      | 事業活動収入計   | 事業活動支出計   | 基本金組入前当年度収支差額 | 事業活動収支差額比率 | 人件費比率 |
| 法人全体 | 2,743,530 | 2,593,781 | 149,749       | 5.5%       | 58.8% |
| 大 学  | 1,141,338 | 978,576   | 162,762       | 14.3%      | 51.9% |
| 短 大  | 845,741   | 862,350   | -16,609       | -2.0%      | 58.7% |
| 高 校  | 670,824   | 622,869   | 47,955        | 7.1%       | 65.8% |
| 幼稚園  | 83,591    | 90,876    | -7,285        | -8.7%      | 63.1% |

### 貸借対照表

令和4年3月31日

（単位：千円）

| 科 目         | 本年度末        | 前年度末        | 増 減       |
|-------------|-------------|-------------|-----------|
| 資産の部        |             |             |           |
| 固定資産        | 12,636,119  | 12,594,092  | 42,027    |
| 有形固定資産      | 7,516,282   | 7,776,113   | △ 259,831 |
| 特定資産        | 5,118,511   | 4,816,654   | 301,857   |
| その他の固定資産    | 1,325       | 1,325       | 0         |
| 流動資産        | 1,185,794   | 1,068,999   | 116,795   |
| 資産の部合計      | 13,821,913  | 13,663,091  | 158,822   |
| 負債の部        |             |             |           |
| 固定負債        | 569,943     | 568,099     | 1,844     |
| 流動負債        | 635,512     | 628,283     | 7,229     |
| 負債の部合計      | 1,205,455   | 1,196,382   | 9,073     |
| 純資産の部       |             |             |           |
| 基本金         | 14,900,418  | 14,850,525  | 49,893    |
| 第1号基本金      | 14,705,850  | 14,652,970  | 52,880    |
| 第2号基本金      | 0           | 0           | 0         |
| 第3号基本金      | 13,568      | 13,555      | 13        |
| 第4号基本金      | 181,000     | 184,000     | △ 3,000   |
| 繰越収支差額      | △ 2,283,960 | △ 2,383,816 | 99,856    |
| 純資産の部合計     | 12,616,458  | 12,466,709  | 149,749   |
| 負債及び純資産の部合計 | 13,821,913  | 13,663,091  | 158,822   |

### 【参考】財務指標の意味

（日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センターより）

#### ①事業活動収支差額比率【基本金組入前当年度収支差額／事業活動収入】

事業活動収入に対する基本金組入前の当期収支差額が占める割合で、この比率がプラスで大きいほど自己資金が充実し、財政面での将来的な余裕につながるものである。

#### ②人件費比率【人件費／経常収入】

人件費の経常収入に占める割合を示す。人件費は学校における最大の支出要素であり、この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化につながる要因となる。

#### ③教育研究費比率【教育研究経費／経常収入】

教育研究経費の経常収入に占める割合を示す。教育研究経費は、教育活動に維持・充実のため不可欠なものであり、この比率も収支均衡を失しない範囲内で高くなることが望ましい。

#### ④積立率【運用資産／要積立額】

運用資産＝現金預金＋特定資産＋有価証券

要積立額＝減価償却累計額＋退職給付引当金＋2号基本金＋3号基本金

学校法人の経営を持続的かつ安定的に継続するために必要となる運用資産の保有状況を表す。長期的に必要な資金需要（保有すべき要積立額）に対し、実際にどの程度運用資産として保持しているかを把握する指標となる。

#### ⑤流動比率【流動資産／流動負債】

流動負債に対する流動資産の割合であり、1年以内に返済義務のある借入金等の流動負債に対して、学校法人の資金流動性すなわち短期的な支払能力を判断する重要な指標である。一般的には200%以上であれば優良とみなされる。

### 活動区分資金収支計算書

令和3年4月1日から  
令和4年3月31日まで

（単位：千円）

| 科 目                                   | 金 額       | 科 目                               | 金 額       |
|---------------------------------------|-----------|-----------------------------------|-----------|
| 教育活動による資金収支                           |           | その他の活動による資金収支                     |           |
| 収入                                    |           | 収入                                |           |
| 学生生徒等納付金収入                            | 1,995,554 | 借入金等収入                            | 0         |
| 手数料収入                                 | 37,721    | 退職給付引当特定資産取崩収入                    | 10,547    |
| 特別寄付金収入                               | 3,885     | 修学旅行費預り金受取収入                      | 0         |
| 一般寄付金収入                               | 0         | 預り金受取収入                           | 0         |
| 経常費等補助金収入                             | 605,708   | 小 計                               | 10,547    |
| 付随事業収入                                | 23,658    | 受取利息・配当金収入                        | 1,758     |
| 雑収入                                   | 57,009    | 過年度修正収入                           | 220       |
| 教育活動資金収入計(1)                          | 2,723,535 | その他の活動資金収入計(2)                    | 12,525    |
| 支出                                    |           | 支出                                |           |
| 人件費支出                                 | 1,598,660 | 借入金等返済支出                          | 0         |
| 教育研究経費支出                              | 534,433   | 第3号基本金引当特定資産繰入支出                  | 14        |
| 管理経費支出                                | 125,295   | 退職給付引当特定資産繰入支出                    | 12,391    |
| 教育活動資金支出計(2)                          | 2,258,388 | 学園施設等充実引当特定資産繰入支出                 | 300,000   |
| 差引(3)=(1)-(2)                         | 465,147   | 修学旅行費預り資産繰入支出                     | 27,366    |
| 調整勘定等(4)                              | 12,921    | 預り金支払支出                           | 153       |
| 教育活動資金収支差額(5)=(3)+(4)                 | 478,068   | 修学旅行費預り金支払支出                      | △ 27,366  |
| 施設整備等活動による資金収支                        |           | 小 計                               | 312,558   |
| 収入                                    |           | 借入金等利息支出                          | 0         |
| 施設設備寄附金収入                             | 0         | 過年度修正支出                           | 50        |
| 施設設備補助金収入                             | 1,687     | その他の活動資金支出計(3)                    | 312,608   |
| 施設設備売却収入                              | 0         | 差引(4)=(2)-(3)                     | △ 300,083 |
| 施設整備等活動資金収入計(6)                       | 1,687     | 調整勘定等(5)                          | 0         |
| 支出                                    |           | その他の活動資金収支差額(4)=(3)+(5)           | △ 300,083 |
| 施設関係支出                                | 25,376    | 支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額) (1)+(4) | 122,070   |
| 設備関係支出                                | 32,226    | 前年度繰越支払資金                         | 940,047   |
| 施設整備等活動資金支出計(7)                       | 57,602    | 翌年度繰越支払資金                         | 1,062,118 |
| 差引(8)=(6)-(7)                         | △ 55,915  |                                   |           |
| 調整勘定等(9)                              | 0         |                                   |           |
| 施設整備等活動資金収支差額(10)=(8)+(9)             | △ 55,915  |                                   |           |
| 小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額) (1)+(10) | 422,153   |                                   |           |

### 部門別事業活動収支計算書

（単位：千円）

| 活動区分     | 科 目                      | 部 門 | 総 額       | 大 学       | 短 大      | 高 校     | 幼稚園     | 法 人      | 活動区分     | 科 目                                 | 部 門       | 総 額         | 大 学       | 短 大      | 高 校     | 幼稚園     | 法 人      |   |   |
|----------|--------------------------|-----|-----------|-----------|----------|---------|---------|----------|----------|-------------------------------------|-----------|-------------|-----------|----------|---------|---------|----------|---|---|
| 教育活動収入の部 | 学生生徒等納付金                 |     | 1,995,554 | 929,649   | 692,173  | 372,742 | 990     | 0        | 特別収入の部   | 経常収支差額<br>(7)=(3)+(6)               |           | 140,793     | 160,068   | △ 16,645 | 43,517  | △ 9,073 | △ 37,074 |   |   |
|          | 手数料                      |     | 37,720    | 15,798    | 12,270   | 9,623   | 29      | 0        |          | 収入の部                                | 資産売却差額    |             | 0         | 0        | 0       | 0       | 0        | 0 |   |
|          | 寄付金                      |     | 4,280     | 2,050     | 2,076    | 0       | 154     | 0        |          | その他の特別収入                            |           | 11,364      | 3,824     | 1,178    | 4,461   | 1,901   | 0        | 0 |   |
|          | 経常費等補助金                  |     | 605,708   | 141,755   | 110,298  | 278,654 | 75,001  | 0        |          | 支出の部                                | 特別収入合計(8) |             | 11,364    | 3,824    | 1,178   | 4,461   | 1,901    | 0 | 0 |
|          | 付随事業収入                   |     | 23,658    | 2,141     | 16,005   | 0       | 5,512   | 0        |          | 資産処分差額                              |           | 2,357       | 1,100     | 1,121    | 23      | 113     | 0        | 0 |   |
|          | 雑収入                      |     | 63,489    | 45,889    | 11,568   | 5,344   | 4       | 684      |          | その他の特別支出                            |           | 51          | 30        | 21       | 0       | 0       | 0        | 0 |   |
|          | 教育活動収入合計(1)              |     | 2,730,409 | 1,137,282 | 844,390  | 666,363 | 81,690  | 684      |          | 特別支出合計(9)                           |           | 2,408       | 1,130     | 1,142    | 23      | 113     | 0        | 0 |   |
|          | 人件費                      |     | 1,606,915 | 590,107   | 495,980  | 438,135 | 51,520  | 31,173   |          | 特別収支差額<br>(10)=(8)-(9)              |           | 8,956       | 2,694     | 36       | 4,438   | 1,788   | 0        | 0 |   |
|          | 教育研究経費                   |     | 854,541   | 329,262   | 316,878  | 170,012 | 38,389  | 0        |          | 基本金組入前当年度収支差額<br>(11)=(7)+(10)      |           | 149,749     | 162,762   | △ 16,609 | 47,955  | △ 7,285 | △ 37,074 |   |   |
|          | 管理経費                     |     | 129,917   | 58,077    | 48,350   | 14,699  | 854     | 7,937    |          | 基本金組入額合計(12)                        |           | △ 52,893    | △ 28,768  | △ 14,805 | △ 7,202 | △ 2,105 | △ 13     |   |   |
| 教育活動支出の部 | 徴収不能額等                   |     | 0         | 0         | 0        | 0       | 0       | 0        | 事業活動収入の部 | 当年度収支差額(13)=(11)+(12)               |           | 96,856      | 133,994   | △ 31,414 | 40,753  | △ 9,390 | △ 37,087 |   |   |
|          | 教育活動支出合計(2)              |     | 2,591,373 | 977,446   | 861,208  | 622,846 | 90,763  | 39,110   |          | 前年度繰越収支差額(14)                       |           | △ 2,383,816 | —         | —        | —       | —       | —        | — |   |
|          | 教育活動収支差額<br>(3)=(1)-(2)  |     | 139,036   | 159,836   | △ 16,818 | 43,517  | △ 9,073 | △ 38,426 |          | 基本金取崩額(15)                          |           | 3,000       | —         | —        | —       | —       | —        | — |   |
|          | 受取利息・配当金                 |     | 1,757     | 232       | 173      | 0       | 0       | 1,352    |          | 習年度繰越収支差額(16)=(13)+(14)+(15)        |           | △ 2,283,960 | —         | —        | —       | —       | —        | — |   |
|          | その他の教育活動外収入              |     | 0         | 0         | 0        | 0       | 0       | 0        |          | (参考)                                |           |             |           |          |         |         |          |   |   |
|          | 教育活動外収入合計(4)             |     | 1,757     | 232       | 173      | 0       | 0       | 1,352    |          | 事業活動収入合計(1)+(4)+(8)                 |           | 2,743,530   | 1,141,338 | 845,741  | 670,824 | 83,591  | 2,036    |   |   |
|          | 借入金等利息                   |     | 0         | 0         | 0        | 0       | 0       | 0        |          | 事業活動支出合計(2)+(5)+(9)                 |           | 2,593,781   | 978,576   | 862,350  | 622,869 | 90,876  | 39,110   |   |   |
|          | その他の教育活動外支出              |     | 0         | 0         | 0        | 0       | 0       | 0        |          | 事業活動収支合計(1)+(4)+(8)-(2)+(5)+(9)     |           | 149,749     | 162,762   | △ 16,609 | 47,955  | △ 7,285 | △ 37,074 |   |   |
|          | 教育活動外支出合計(5)             |     | 0         | 0         | 0        | 0       | 0       | 0        |          | 事業活動収入合計－事業活動支出合計<br>＝基本金組入前当年度収支差額 |           | 149,749     | 162,762   | △ 16,609 | 47,955  | △ 7,285 | △ 37,074 |   |   |
|          | 教育活動外収支差額<br>(6)=(4)-(5) |     | 1,757     | 232       | 173      | 0       | 0       | 1,352    |          |                                     |           |             |           |          |         |         |          |   |   |



## 富山国際大学

## 学生による県内小学校体育授業サポート



小学校体育授業サポートは、射水市、上市町の教育委員会から、子どもたちが体育の楽しさを味わうことができるような支援をしてほしいという依頼を受けて始まった、今年度で5年目を迎える学生主体の活動です。その活動は小学校の先生との事前打ち合わせから始まり、先生方の要望や、子どもたちの実態を踏まえて、学生が中心となって授業のめあて、それを達成するための活動内容や準備運動を考えていきます。授業当日までに事前研修を行い、めあての達成のために必要な支援内容を検討し、それを実践の中で十分に理解した上で授業に臨んでいます。授業への参加を通して、

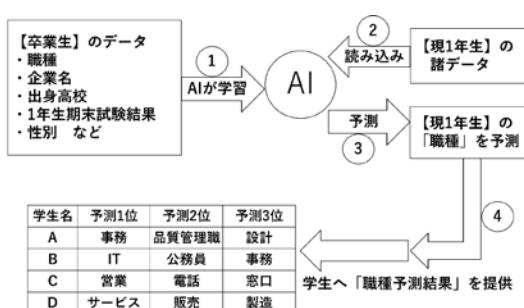
子どもの「できない」が「できる」になる瞬間に立ち会う喜びを味わい、学生の更なる指導意欲の高まり、運動指導力の向上につながっています。

## 富山短期大学

## AIによる就職活動支援をスタート

2022年10月から富山短期大学 経営情報学科では現1年生を対象に、「AI（人工知能）で予測した『職種』を学生の就職活動に活用する取り組み」を開始いたしました。高校卒業後間もない1年生の後期から、業界や職種、会社を選ぶことは、学生や支援をする教職員にとっても非常に高いハードルとなっています。そこで、AIにより予測した「職種」を学生に提供し、自分がどのような職種（事務職や営業職、サービス職…etc.）に向いているのか、判断材料としてもらう取り組みを始めました。

さらに本学（4学科）では、2023年4月から、文部科学省が推奨する「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」認定に向けた取り組みも開始し、2024年度の文部科学省認定をめざします。



## 富山国際大学附属高等学校

## 第32回文化活動発表会開催

第32回文化活動発表会が2022年9月22日（木）、「Make a “color” together」のテーマのもと、開催されました。3年ぶりの対面開催となった今回は、活気あるステージ発表や多彩な展示で、大きな盛り上がりを見せました。

開会宣言のあと、ステージでは、ビートボックス、ハンドベル、ギター演奏やダンスなどの楽しいものから、留学報告、研究発表や探求活動の発表など知的なものまで、幅広い分野の発表が行われました。最後に、ゲストのサンシャイン池崎さんが登場し、生徒たちは大きな声援を送っていました。

午後からは各展示の自由鑑賞となり、1・2年生の工夫を凝らした教室展示や、各部のパフォーマンスなどを見て回る生徒たちで賑わいました。

生徒たちの明るい笑顔や元気な姿に、徐々に日常を取り返しつつあることを感じさせてくれる文化活動発表会となりました。

## 富山短期大学附属みどり野幼稚園

## みんなで子育て！



在園児保護者によるベビーマッサージ

みどり野幼稚園では、毎週水曜日の午前中に、未就園の子どもとその保護者の方を対象とした親子サークルを実施しています。親子サークルでは、園庭や子育て支援室で自由に遊ぶ時間のほかに、講師を中心に活動する時間を設けており、講師として、在園児や卒園児のお母さんの協力を得ています。ベビーマッサージや絵本の読み聞かせ、本格的な歌とピアノのコンサートからベビータンゴまで。みどり野幼稚園で一緒に子育てをしてきた保護者の方が、幼稚園の応援団となり、それぞれの得意な分野で地域の子育て家庭を支援しています。親子サークルは、保護者の方と一緒に育てた「子育て文化」を伝える素敵な時間となっています。